

教育実践研究Ⅰ

必修 3単位

坂本 和良・赤堀 博行・荒巻 恵子・
五十嵐 義征・魚山 秀介・蒲地 啓子・
神田 基史・小山 恵美子・清水 静海・
杉坂 郁子・鈴木 康仁・田村 順一・
町支 大祐・細戸 一佳・前島 正明・
爲川 雄二・小関 禮子

1. 授業の概要(ねらい)

配属学級等を中心に、教科等の授業の教育実践を通じて、授業づくりの基本的な理念・手立て、評価の理念・方法などにかかわる授業実践力、児童生徒理解とそのための技法の獲得、及び、学級経営、生活指導等、特別活動・生活指導についての理解とその力量を高める。

2. 授業の到達目標

配属学級等を中心に、学習指導や学級経営、生徒指導、特別活動等、子どもの指導にかかる実習に継続的に取り組み、他の教員をリードできる高度な実践的指導力・展開力を獲得する。

＜A類学生＞

・教科等の授業づくりの基本的な理念・手立て、評価の理念・方法、児童生徒理解とそのための技法などを理解し、その実践的力量を獲得する。

・教科等の授業づくりを中心に実習を進めながら、学級経営、生活指導等、特別活動・生活指導などの実習に取り組み、子どもの指導にかかる実践的な指導力を獲得する。

＜B類学生＞

・上記の力量の向上を図りつつ、授業づくり・学級経営、生活指導等、特別活動・生活指導などの進め方や臨床的な研究の仕方などについて協議・研究したり、そこで指導性を発揮できる力の育成を図る。

3. 成績評価の方法および基準

実習校及び自己評価(50%)、実習記録(30%)、実習状況(20%)等を参考として総合的に評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

特になし。

参考文献

実習指導日等で適宜紹介する。

5. 準備学修の内容

実習校についての実態を十分に把握し、教員としての服務・指導の充実を図れるよう準備する。

いつでも授業実践ができるよう、学習指導案を数種類用意しておくことよい。

6. その他履修上の注意事項

指導教員と十分な連携を図り、実習記録の提出・指導を大学担当教員と連携を密にする。

7. 授業内容

1 実習期間

・5～7月(原則)

・実習期間は実習校と相談して決める。

2 主な実習内容

・教科等の教材開発と指導計画、学習指導案の作成

・教科等の学習指導(協力的指導を含む)の実践

・指導と評価の実践、評価問題の作成

・総合的な学習の時間や外国語活動の計画と指導の実践

・ICT等を活用した授業の計画と実践

・自身の授業分析に基づく授業改善推進プランの作成

・児童の問題行動や保護者等との対応の実践

3 実習方法

・集中型の連続実習を基本としつつ、連携協力校や学生のニーズ・実状にあった実習スタイルをつくる。

・学生は配属学級等での指導を中心としつつ、他学年・他学級での観察・参加・指導も行う。

・放課後には、学生、担当教員、大学教員による指導の会を定期的に実施して指導を受け、常に課題を明確にしながらかつ実習に取り組めるようにする。